

放射線科

I プログラムの名称

日野市立病院 放射線科初期臨床研修プログラム

II プログラムの管理・運営

日野市立病院臨床研修管理委員会においてプログラムの管理・運営を行う。

プライマリ・ケア医の研修養成課程で、放射線科を選択科目と研修希望するものを対象として、下記研修プログラムを履修する。研修医 1 名に対して、指導医が総括的な指導を行う。

III プログラムの指導者

統括責任者及び研修担当医

三 浦 弘 志（日本医学放射線学会認定専門医・評議員，日本 IVR 学会認定指導医・評議員，日本脈管学会認定脈管専門医・評議員，日本腹部救急医学会評議員，日本血管内治療学会評議員）

IV 一般目標

2 年間の初期臨床研修の中で、一般臨床医に必要な放射線医学の基本となる考え方、臨床技術などを学ぶ。とくに、プライマリ・ケアの場面で必要な画像診断法について最低限の診断学を習得する。

V 行動目標

(1) 患者—医師関係

- ・ 患者の社会的側面を配慮した意思決定ができる。
- ・ 守秘義務の徹底

(2) チーム医療

- ・ 画像診断および放射線治療において、他科医師と円滑なコミュニケーションを持ち、患者にとって最良の診療を行うことができる。

(3) 問題対応能力

(4) 安全管理

(5) 医療面接

- ・ 患者の的確な問診ができる。
- ・ コミュニケーションスキルの習得

VI 経験目標

1) 放射線診断

a) 単純撮影・造影検査（消化管・泌尿器・血管造影など）・CT 検査・超音波検査・MRI 検査の意義，臨床における位置づけや限界，具体的な検査法について研修する。また，各画像診断の基礎となる解剖や診断装置の原理および構造を習得する。

b) CT 検査

CT からみた解剖の理解

CT 検査の臨床における位置づけ

基本的疾患および急性疾患の診断

造影の適応および造影方法，撮像方法の理解

c) MRI 検査

MRI の原理および MRI からみた解剖の理解

基本的疾患の読影

d) 超音波検査

超音波検査からみた解剖の理解

基本的な検査手技の習得

超音波検査の臨床での位置づけ

基本的疾患および急性疾患の診断

超音波ガイドによる治療手技の見学

e) 消化管検査

上部及び下部消化管検査の見学

f) 血管造影検査および IVR

血管解剖の理解

緊急検査としての血管造影・IVR の意義および方法の理解

基本的疾患および急性疾患の診断

VII 研修スケジュール

研修スケジュールについては研修医の希望も考慮し，柔軟に対応する（最低1ヶ月間が望ましいが要望に応ずる）が，画像診断を中心とした1週間の研修時間割を下記に提示する。（半日を1単位とする）

研修は原則として，午前8時30分から午後4時30分までとする。

頭部、体部 CT 4 単位

MRI 3 単位

消化管 1 単位

血管造影・IVR 1 単位

超音波 1 単位

（希望に応じて変更も可能）

緊急血管造影検査や non-vascular IVR(外科領域)などについては
適宜見学

放射線科内の読影会出席は義務とし，診療各科とのカンファレンスには可能な限り出席する。

VIII 研修評価

指導医が10項目からなる研修評価を行う。また、研修手帳の内容を照合し、しかるべき研修が行われたか吟味する。

研修医氏名					
1	必要な技術をマスターできたか？	A	B	C	D
2	必要な知識を身につけたか？	A	B	C	D
3	医療従事者との人間関係は良好か？	A	B	C	D
4	勤務態度，カンファレンスへの参加状況	A	B	C	D
5	患者（および家族）への対応	A	B	C	D
6	患者の処置，外来業務における対応は的確か？	A	B	C	D
7	患者の問題点の認識能力とその解決能力	A	B	C	D
8	報告書やカルテの記述，提出状況	A	B	C	D
9	カルテなど公文書の記載は的確か？	A	B	C	D
10	症例に関する研究意欲は？	A	B	C	D
総合評価					
研修担当指導医署名					

総合評価は A=3, B=2, C=1, D=0 としてスコア化する。30点満点。